

反貧困全国集会 2025 集会宣言

「武器よりメシを！ 貧困・格差の是正と社会保障に税金を使え！」

参院選が近付いてきました。先の衆院選では、「手取を増やす」をキャッチフレーズにした「減税」政策に若年層などからの支持が集まりました。そこには、税を払っても払っても生活が支えられないことへの人々の怒りの声があります。勝手に使われ、暮らしを支えず人々に重荷を課すだけの「取られ損」の税であれば、政治から自分たちの手へと取り戻し、貯金と節約で自分で自分の生活を守るしかないという政治不信の現れだといえます。

また、「失われた30年」ともいわれる1990年代半ば以降、貧困と格差を深刻化させてきた政策の結果だともいえます。雇用の調整弁としての非正規雇用への置き換えを進め、不安定で低賃金の働き方を増やして生活不安を増大させながら、自己責任・自助努力を求めて、社会保障を限定的で脆弱なものとすれば、社会保障に支えられる人と支えられない人の間に分断が生じ、支えられない人々が「取られ損」の税の負担に抵抗するのは当然です。

本日の集会では、非正規労働者・非正規公務員、生活保護・年金利用者、農民、外国人、障害者、学生、被災者など、生活に困窮し、就労、医療、住まい、教育など、様々な領域から排除された当事者の方からの報告がありました。このまま「取られ損」が続けば、「税金返せ」の声は一層強まり、税収は高齢化と人口減少と相まって一層先細りし、税収減を背景に、社会保障は合理化・効率化の名のもとにこれまで以上に削減が加速することになりかねません。社会保障に支えられない人々はさらに税負担に抵抗し、自己責任が強まり、分断と排除、貧困と格差が拡大するという悪循環が続くことになります。そして、これまでもそうであったように、生活保護や、女性の就労を支える介護・保育など、声が届かない、力の弱い人々を支える社会保障から真っ先に削られていく恐れがあります。

私たちは、このような負のスパイラルを断ち切らなければなりません。本来、税は、人々が互いに支え合い、共同の困難を乗り越え、人々が連帯して幸福な社会を構築するために必要とされてきたものです。問題なのは、税そのものではなく、この国における、税の「取り方」と「使い方」です。「取り方」では、いわゆる「1億円の壁」（1億円を境に富裕層になるほど税負担率が下がるという問題）が一向に是正されないなど富裕層に有利な制度となっているという問題などがあります。「使い方」では、国民的議論もないまま防衛費増に巨額の税が使われるなど、税の透明性と民主的コントロールが確保されていないという問題があります。また、税の負担のあり方と社会保障給付のあり方の両者を組み合わせた総合的政策により、貧困と格差を是正すべきであるのに、この国では、こうした税と社会保障による所得再分配が機能不全に陥っているために、分断と排除、貧困と格差が深刻化し、人々の不幸が生み出されています。

私たちは、生きづらさを抱えた者同士が、自己責任や分断の罠に陥らず、個別の問題の枠や立場を越えてつながり、互いに連帯して希望の社会を目指そうと訴え続けてきました。私たちは、誰もが、人間らしく生きる権利を実現するため、これからも声を上げ、行動することを宣言します。「武器よりメシを！ 貧困・格差の是正と社会保障に税金を使え！」。それが負のスパイラルを断ち切る道だ。

2025年4月12日

反貧困全国集会 2025 参加者一同